

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：岡田 林太郎 幹事：釣見 栄一

情報委員長：清水 忠

1978・6月1日

第116号



**“ビルマ遺骨収拾とポニー少年”**

村田 平次氏

第二次大戦中の昭和19年3月、北部ビルマ・インド国境地帯で開始された日本陸軍のインパール攻略戦は、英印軍の反撃で、参加兵力10万のうち5万を失って敗退した。

チャンドラ・ボースによるインド新政権樹立構想も消え、全ビルマ失陥の大きな要因となったこの戦いは、世界の戦史の中でも最も悲惨な戦争として記録されている。

この戦いに参戦した私の隊も僅かな食糧で頑張ったが、戦況は大変悪く、撤退を余儀なくされる。降り続く雨、糧秣の不足の為、戦友はバタバタ倒れて行くのを見て、為すすべもなく、只々無残なものであった。

ビルマ戦線を通じて1人の幼ない少年ポニーと出会う。情が移ったのか、戦況の悪化にも拘らず、時には食糧を集め、又ある時は何千という患者の撤収にと、ポニーは正に私達の恩人であった。

あれから30年……、奇しくもポニーとの再会が訪れた。

昭和50年第一回ビルマ遺骨収拾が行われた時である。ようやく捜し得たその再会は親子の、それのように涙……涙……で抱き合ったのである。

この時の収拾は、自然が、年月がそうさせたのか遺骨は、ほんの僅かしか捜し求める事が出来なかった。

18万5千と言われるビルマに散って行った英霊と再会后2ヶ月あまりで貧しさ故に死んでいった恩人ポニーに慎んで合掌するものである。

今ビルマは貧困に喘いでいる。温かいビルマ人を想う時、我が国が経済大国であることの実事が私を複雑な気持ちにさせるのである。

—金沢北RC例会講話より— (文責 米沢修一)

## ヨバ・リンダ・ロータリーデビット栗栖さんとお会いして

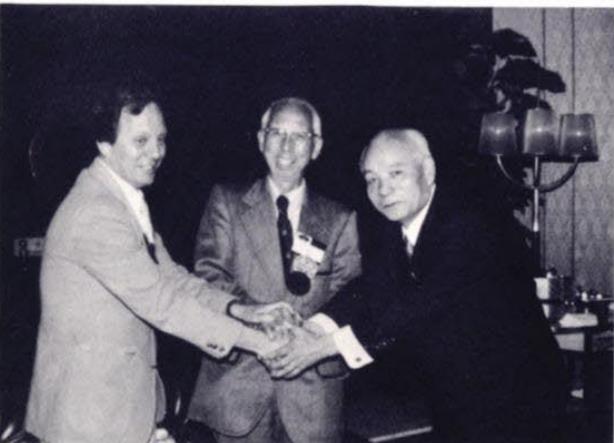
山岸 与作

5月14日のRI国際大会の様子は5月18日の例会日に会長、幹事、又飯野会員よりつぶさに御報告され、皆様方にはその様子を恐らく相像出来得たこと、思いますので省略して、栗栖さんと翌日お会いして私が肌で感じましたその一端を述べたいと思います。

その先に参加しました私は単身で御同伴の奥さん方が大変満足され、嬉ばれていた様子を拝見して一諸に見せてやればよかったなと後悔した次第です。

特に4万人近くも収容するあの代々木の屋内大体育館に古くから伝わる日本の芸能を全国から集め大胆に而もきめ細かく演出して歌や、音や、踊り又衣裳等からにじみ出て来る日本人の心、そして姿を会場を埋めつくした世界のロータリアンに改めて印象づけ、広く伝えて友情の輪は大きく広がり、つながったものと信じて居ります。

さて翌朝予め指示されました高輪プリンスホテルに、散々伍々に8時に集合してヨバ・リンダ・クラブとの懇談に臨みました。不安と期待とさくそうした気持です。恐らく私だけではなかったでしょう。一行の皆さんは昨夜の疲れはいさ、かもありませんでした。8時をや、過ぎて1階ロビーに栗栖さん夫妻の姿を拝見することが出来ました。早速ロビーに椅子席を作って名刺交換が始まりました。全く予想は裏切られました、最初からさまざまな話しに花が咲きます。ヨバ・リンダ・



クラブはロスより西南へ車で約30~40分「ロス」のベッドタウンとして近い将来理想的な市に発展することが伺われます。そしてオレンヂ州の概要、アメリカの近況、栗栖夫妻の生い立ち・現状、さまざまな体験、そして栗栖さんが大東亜戦に志願兵としてアメリカ軍に入隊し沖縄を攻略した話しも出て来ます。自然のうちに親しみが感じられて来ます。栗栖さんの日本語には寸分の狂いもありません。アメリカで生れ日本を知らずに育ったこの二世栗栖さんがどうしてこんなに立派な日本語が使えるのでしょうか。

私は不思議でなりません。やはり彼は日本人であることが肌で感じられます。そして栗栖さんの話しのなかには、アメリカを愛し、そして母国日本を思い、心情の一端が汲みとれます。会談はつきません。

栗栖さんはヨバ・リンダ・クラブより今度の提携について一切を会長より委任されてこれら岡田会長得意のユーモアを交えて笑いのうちにスムーズに出来上りました。栗栖さんの奥様も同伴の岡田会長・釣見幹事・飯野夫人等と夫人同志でこれまた、旧知の如くなごやかな話が続きます。たゞし夫人の日本語は単語のられつです。時間のたつのも忘れてしまいました。

私は10時に約束があり、一足先にホテルを出て一行と別れました。

私達参加者の要請で予定を変更して金沢へ立寄り、当クラブ訪問も考えられたようです。来て頂きますならばそして皆様方とお会いすることが出来ましたならば、栗栖さんを通じてヨバ・リンダ・クラブとの提携は極めて友交裡に進展することを期待し、又固く信ずる一人です。そして又アメリカ人を表面だけしか知らない私達にとってアメリカを知り、更に日本を知って互に親善を深めることが出来ますならば嬉しいことだと思います。

## ロータリー「1」へメーキャップ

——シカゴクラブ例会——

浅野 弘明

今回我々業界のアメリカ研修旅行の団長として、一行20名、メーカー、デラ訪問、又展示会に参加した。訪問都市はニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルス、サンフランシスコ。

27日帝国ホテルにて結団式、4月28日出発、5月8日帰国。11日間途中メーカー、デラへの訪問先が多く強行スケジュール。しかし何処かで時間を作りメーキャップしなければと思い取敢えずロータリアン海外クラブ例会を手中一路アメリカへ……。

機中でどうせメーキャップするのだったら発祥の地シカゴが適当と思い、クラブ例会一覧を見ると、シカゴではシカゴ東と、シカゴクラブとなって居り、シカゴクラブの例会場はシラトンシカゴホテルとなって居る。シカゴ到着後探そうと思いニューヨークからシカゴへ。

私達の宿ラデソンシカゴホテルへ到着。ホテルの正面よりエスカレーターでホテルのフロントへ行く。正面の柱にロータリーのマークのついた縦横50厘角の大変古風な鋳がとりつけてありよく見るとロータリークラブシカゴ、又此所は発祥地で、例会は12時10分よりと記入してある。偶然にも私達が泊るホテルはシラトンシカゴであり、経営者が変りラデソンシカゴホテルと名称も変っていた次第。それではと事務所を捜がすと大変重みのある扉でロータリーワンと大きく出て居る。偶然でも最高のチャンス、なんと



して、も例会に臨ばねばと決心。火曜日我々一行は、朝からエバンストン（高級住宅街、1954年8月以来国際ロータリーの本拠地）エバンストンはシカゴより車で40分位の所、アメリカンホスピタルの本社を（メデカルの世界企業）訪問。11時すぎより会長と社長にお会いし、食事をもにすることになって居る。私はとにかく挨拶だけし、ロータリーの例会場へ帰るのに心を決め、会長・社長を待つ。11時15分時間ぎりぎり待てないので会長・社長に宜敷く伝えてほしいと、副団長に頼みタクシーで例会場であるラデソンホテルへ直行、例会にのぞむ。

シカゴワンロータリークラブは670人位の会員。大変大きな会場、少し離れた所の人はボーとして見えない大変な人。兎に角海外でのメーキャップも初めて、心臓を強くしてローマ字で名前・所属クラブ・職業を記入し、食事代を払う。バーナーの交換を頼み前列へ案内される。メーキャップには多くの方が見えていましたが、バーナー交換は日本人の私、イタリ人、イギリス人の3人。最初に私が演壇に上り自分を紹介、バーナーをシカゴロータリーワン会長のロバートウインガさんと交換、又金沢の兼六園はじめ日本の三大公園の写真等を持参プレゼント。はじめ会長さんはコンチネンタル銀行の副社長である。当日の講話はモービルの副社長がアメリカのエネルギーと石油について話して居られました。

副会長さんは東洋人で初めてだと言う、ポールチョグさん。韓国出身でイリノイ歯科大学教授。私の知人3人程知って居り例会終了後すぐ私の所へ来て、いろいろ歓談。日本語が大変上手でロータリーワン事務所内を案内して頂き、ポールハリスさんの肖像画を挟み、写真を撮り、各部屋をくまなく拝見、特にプレジデントオフィスでは交換したバーナーがずらり並んで、そこでも写真をパチリ、又中のスタッフの方をいろいろ紹介して頂きなごやかなひとときをすごしました。

今度の東京の国際ロータリー大会に沢山の方々がシカゴから参加するとの事でした。かくて私のシカゴでのメーキャップで目的達成。本当に幸運だったと胸を撫でおろす。

